

エコアクション21

環境活動レポート

(2014年12月1日～2015年2月28日)



2015年 3月20日発行

2015年 5月27日改訂

 **フ。ライムデリカ株式会社**

目次

1. 組織の概要	P.3
2. 対象範囲	P.5
3. 環境方針	P.7
4. (基準年の環境負荷と)環境目標	P.8
5. 環境活動計画、環境目標の実績及び環境活動計画の 取組結果とその評価並びに次年度の取組内容	P.9
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P.13
7. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.14

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

プライムデリカ株式会社

代表者氏名 代表取締役社長 齊藤 正義

(2) 所在地

認証・登録範囲

本社・相模原工場

〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台1-7-1

認証・登録範囲外

厚木工場 〒243-003 神奈川県厚木市船子258-1
龍ヶ崎工場 〒301-0852 茨城県龍ヶ崎市向陽台5-6-3
豊田第一工場 〒470-0334 愛知県豊田市花本町井前1番地23
豊田第二工場 〒470-0361 愛知県豊田市猿投町野入44-53
枚方工場 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町15-1
宝塚工場 〒665-0051 兵庫県宝塚市高司 4丁目6番40号
新居浜工場 〒792-0852 愛媛県新居浜市東田2丁目乙1番2
宗像工場 〒811-3201 福岡県福津市八並268-1
佐賀工場 〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町大字上1580-22
宮崎工場 〒880-0303 宮崎県宮崎市佐土原町東上那珂11375-12

龍ヶ崎工場 豊田第一工場 豊田第二工場 2015年認証登録予定

枚方工場 宝塚工場 新居浜工場 2016年認証登録予定

佐賀工場 宗像工場 宮崎工場 厚木工場 2017年認証登録予定

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者	取締役生産本部長	加藤 幸作
EA21事務局員	生産技術部課長	菊地 浩
	生産技術部	山崎 恒之
	環境部	片田 康介

連絡先 〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台1-7-1
TEL 042-702-0011
FAX 042-702-2611

(4) 事業活動の内容

コンビニエンスストア向けの軽食・総菜・デザート[※]の製造及び関連新商品の開発

(5) 事業の規模 (2014年3月1日～2015年2月28日)

売上額 740億46百万円
従業員数 7457人

(6) 認証登録の対象組織の規模

本社・相模原工場
従業員数 898人
延床面積 10678.43m²

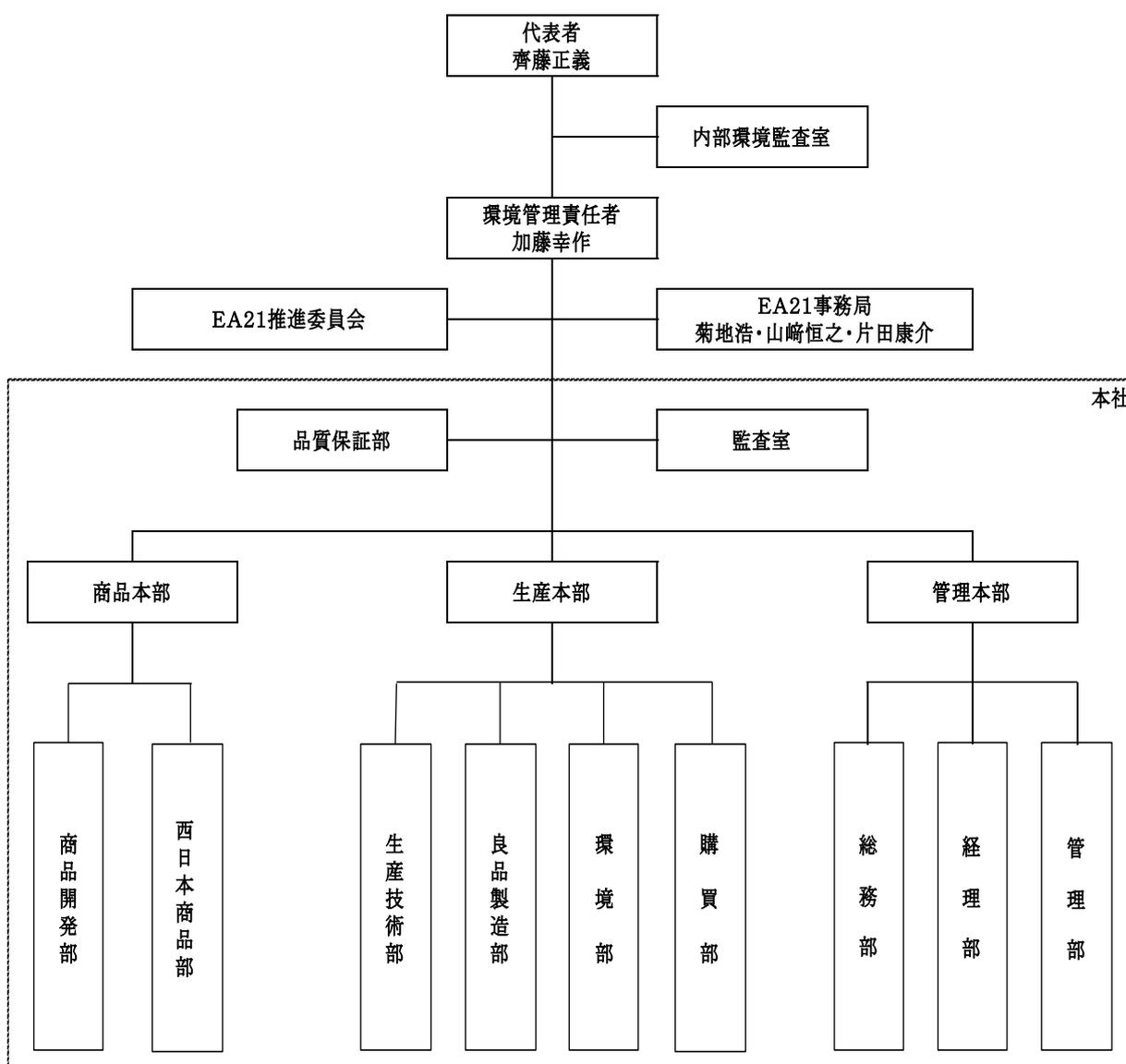


2. 対象範囲

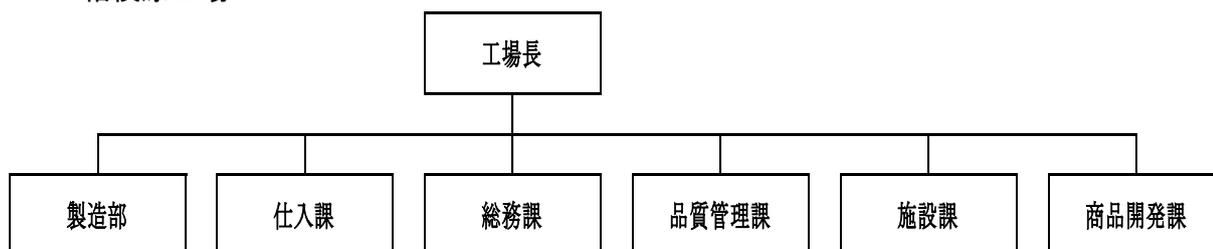
(1) 認証・登録対象組織

本社及び相模原工場(所在地は1.(2)に記載)

(2) 実施体制 (組織図)



工場組織図
相模原工場



(3)実施体制(役割・権限)

代表者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境方針の策定 2. 環境管理責任者の任命、環境保全活動の取り組みに関する責任及び権限の付与 3. 環境マネジメントシステムの実施に必要な資源(人材、資金、技術、インフラストラクチャー等)の提供 4. 内部環境監査長の任命 5. 代表者による全体の見直しと評価を行う
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. 推進機関であるEA21EMSの事務局の責任者として事務局運営 4. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施する 5. 関連法規の取りまとめ表の維持管理、遵守徹底 6. 環境関連文書及び記録の作成・整理
EA21事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 2. 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 3. 環境目標、環境活動計画書原案の作成 4. 環境活動の実績集計、環境関連法規等取りまとめ表の作成 5. 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 6. 環境関連の外部コミュニケーションの窓口、環境活動レポートの作成
EA21推進委員	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自部門における環境経営システムの実施、環境方針の周知、従業員に対する教育、訓練の実施、自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 2. 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 3. 特定された項目の手順書作成及び運用管理 4. 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練を実施、記録の作成 5. 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部環境監査室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部監査の実施、環境マネジメントシステムへの適合性を監査 2. 内部監査報告書を作成し、環境管理責任者へ報告を行う
従業員	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境方針を理解し、部門の環境活動計画に従って活動する。

3.環境方針

プライムデリカ環境方針

【基本方針】

プライムデリカは、「私達は、お客様に信頼される誠実な企業でありたい」という基本理念のもとに事業展開しています。

食品企業である私たちは、製品原材料の多くを大地と自然の恩恵から享受しており、その豊かな自然環境を次世代へ継承する責任があります。

地球環境保全は経営の最重要課題のひとつであると認識し、持続可能な社会の実現に向け、以下の行動指針に基づき、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境経営を推進します。

【行動指針】

1.環境負荷の低減

・事業活動において、省エネルギー・省資源化・食品残渣の発生抑制及びその他廃棄物の削減等、環境負荷の低減に努めます。さらに、太陽光発電等の自然エネルギーの利用に積極的に取り組みます。

2.循環型社会の形成

・事業活動において、水・熱の再利用化、食品残渣及びその他廃棄物のリサイクルに努め、循環型社会の形成に貢献します。

3.環境への配慮

・環境に配慮した機械設備、備品等の購入を推進します。

4.法規制順守

・環境関連法規制等の要求事項を順守するとともに、環境リスクの未然防止に努めます。

5.地域との共生

・環境保全活動に積極的に参加し、地域社会への貢献とコミュニケーションを図ります。

6.社外公表・周知

・環境情報を広く適切に開示し、全従業員に対し周知徹底するとともに、社外にも公開します。

プライムデリカ株式会社

代表取締役社長

齊藤 正義

制定日 2014年 11月29日

最終改定 2015年 5月 5日

 プライムデリカ

4. (基準年の環境負荷と)環境目標

環境目標	年度基準(実績)				年度目標		中期目標	
	2013年度				2014年度		2015年度	2016年度
	通年		運用期間相当		通年	運用期間		
	原単位	総使用量	原単位	総使用量			2014年12月 ～2015年2月	
1. 二酸化炭素削減	84.93 (kg-CO2/ 千pk)	6,447,257 (kg-CO2)	84.07 (kg-CO2/ 千pk)	1,465,532 (kg-CO2)	92.18 (CO2/千pk)	83.24 (kg-CO2/千pk)	1%削減	1%削減
1.1 電力使用量の削減	原単位	総使用量	原単位	総使用量	前年度原単位比	前年度原単位比	前年度原単位比	前年度原単位比
	95.3 (kwh/千pk)	7,233,980 (kw)	84.72 (kwh/千pk)	1,476,769 (kw)	107%維持 101.971 (kwh/千pk)	1%削減 83.8728 (kwh/千pk)	1%削減	1%削減
1.2 ガス使用量の削減	原単位	総使用量	原単位	総使用量	前年度原単位比	前年度原単位比	前年度原単位比	前年度原単位比
	21.54 (m ³ /千pk)	1,635,020 (m ³)	23.14 (m ³ /千pk)	403,376 (m ³)	110%維持 23.694 (m ³ /千pk)	1%削減 22.9086 (m ³ /千pk)	1%削減	1%削減
2.1 食品廃棄物の削減	原単位	総使用量	原単位	総使用量	前年度原単位比	前年度原単位比	前年度原単位比	前年度原単位比
	※39.9 (g/pk)	3,088,909 (kg)	※38.02 (g/pk)	668,286 (kg)	13%削減	9%削減	5%削減	5%削減
2.2 食品廃棄物リサイクル	リサイクル率		リサイクル率		リサイクル率	リサイクル率	リサイクル率	リサイクル率
	100%		100%		100%維持	100%維持	100%維持	100%維持
3. OA用紙の削減	-		-		-	月ごとの使用量を 把握する	月ごとの使用量を 把握する	前年度使用量 1%削減
4. 水資源投入量の削減	原単位	総使用量	原単位	総使用量	前年度原単位比	前年度原単位比	前年度原単位比	前年度原単位比
	3.35 (m ³ /千pk)	253,947 (m ³)	3.33 (m ³ /千pk)	58,135 (m ³)	108%維持	1%削減	1%削減	1%削減
5. グリーン購入	社有車		社有車		社有車	社有車	社有車	社有車
	100% (ハイブリッドカー)		100% (ハイブリッドカー)		100%維持 (ハイブリッドカー)	100%維持 (ハイブリッドカー)	100%維持 (ハイブリッドカー)	100%維持 (ハイブリッドカー)
6. 環境改善活動	環境改善活動		環境改善活動		工場の外周清掃	工場の外周清掃	工場の外周清掃	工場の外周清掃
	0件		0件		1件以上	1件以上	12件	12件維持

注(1)数値は社内集計データ(ENGデータ、物件明細)より算出

(2)PRTR法に該当する化学物質は使用していません。

(3)再生エネルギーの活用として、太陽光発電を導入しております。

今後、認証拡大予定である龍ヶ崎工場・豊田第二工場・新居浜工場・宮崎工場で実施していま

※食品廃棄物:pk数は売上集計より算出

5. 環境活動計画、環境目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容

(1) 目標と実績

環境活動計画	環境目標		2014年度実績		評価
	運用期間	通年	運用期間	通年	
1. CO2削減	83.24 (kg-CO2/千pk)	92.18 (kg-CO2/千pk)	98.55 (kg-CO2/千pk)	97.27 (kg-CO2/千pk)	×
CO2排出量			1,557,069 (kg-CO2)	6,750,959 (kg-CO2)	
1. CO2削減 ①電力使用量削減	83.87 (kwh/千pk)	101.97 (kwh/千pk)	91.17 (kwh/千pk)	104.71 (kwh/千pk)	×
1. CO2削減 ②ガス使用量削減	22.91 (m ³ /千pk)	23.69 (m ³ /千pk)	28.73 (m ³ /千pk)	28.12 (m ³ /千pk)	×
2. 食品廃棄物 ①食品廃棄物削減	34.6(g/pk)	34.7(g/pk)	38.5(g/pk)	36.6(g/pk)	×
2. 食品廃棄物 ②リサイクル率	100%	100%	100%	100%	○
3. OA用紙削減	月ごとの紙使用量を把握する	月ごとの紙使用量を把握する	全体の使用量を把握できなかった		×
4. 水使用量削減	3.3(m ³ /千pk)	3.46(m ³ /千pk)	4.07(m ³ /千pk)	3.82(m ³ /千pk)	×
5. グリーン購入	社有車(ハイブリッドカー)	社有車(ハイブリッドカー)	社有車(ハイブリッドカー)	社有車(ハイブリッドカー)	○
	100%維持	100%維持	100%維持	100%維持	
6. 環境改善活動	工場の外周清掃	工場の外周清掃	工場の外周清掃	工場の外周清掃	○
	1件	1件	1件	1件	

※購入電力のCO2排出係数:0.406 (t-CO2/kWh)を使用。

○: 目標達成、×: 目標未達

(2) 活動計画内容とその評価、次年度以降の取組

1. CO2削減

計画内容	・電力、ガスの使用量を削減する。
評価	・電力とガスだけでなく、ガソリンの使用量の把握、削減を行っていく。

1. CO2削減

①電力使用量削減

	相模原工場	本社
計画内容	<ul style="list-style-type: none"> ・不使用室の照明の消灯 朝礼を実施し周知する。 朝、夕の巡回チェック。 ・不使用機械の電源オフ 使用后包装機、加熱機器 の電源を切る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所の節電 ウォームビズ 空調の設定温度管理 使用しない部屋の消灯 長時間使わないパソコン モニタをオフにする ・取り組みの周知 朝礼や掲示板による周知活動
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの精度を高める。 消灯時間等を明記した掲示物を作成し、誰でも確認でき、取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本社での活動の周知が徹底できなかった。本社でのフロア別の責任者を選任し、節電の取り組みを行っていく。 ・目標を達成するため、使用量を把握して問題個所を確認し、対策を講じる。

1. CO2削減

②ガス使用量削減

	相模原工場	本社
計画内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ必要機械 の電源オン時間を設定し、順守する。 ・朝礼を実施し周知する。 	/
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ガス使用量を削減するため、ウォームアップだけでなく、終了時の電源offを行う。また食品ロスの発生を抑え、ガス使用量の削減を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成するため、使用量を把握して問題個所を確認し、対策を講じる。

2. 食品廃棄物削減

①食品廃棄物削減

	相模原工場	本社
計画内容	・ゴミの分別 ゴミ分別表の掲示 朝礼を実施し周知を行う	
評価	・食品廃物の排出量を削減するため、歩留まりを削減のため工程の見直し、見込み商品の作成数量を見直し行う。	・目標を達成するため、問題箇所を確認し、対策を講じる。

2. 食品廃棄物削減

②食品廃棄物リサイクル

	相模原工場	本社
計画内容	・ゴミの分別 ゴミ分別表の掲示 朝礼を実施し周知を行う	・業者の選定 食品廃棄物の肥料化・飼料化等、再生利用に取り組む 処分業者を選定する
評価	リサイクル率を維持するためにゴミの分別をきちんとしていく。	リサイクル率を維持するために、処分場の現地確認を行っていく。

3. OA用紙削減

	相模原工場	本社
計画内容		・紙使用量の削減 両面コピーの積極的活用 取組の周知
評価		・本社全体の使用量を把握できなかった。本社でフロア別の責任者を選任し、活動を行っていく。 ・紙の使用量を周知して、使用量削減を図る。

4. 水使用量削減

	相模原工場	本社
計画内容	<ul style="list-style-type: none"> ・水使用機器の節水 ・節水ポスターの掲示 ・朝礼を実施し周知する。 	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・節水ポスターの掲示を行えなかった。経済効果を記載したポスターを作成、掲示することで節水の意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成するため、問題箇所を確認し、対策を講じる。

5. グリーン購入

	相模原工場	本社
計画内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社有車(ハイブリッドカー)の管理 ・管理表を作成し、社有車の使用状況を管理する 	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社有車は管理表を作成し、使用状況を管理出来た。 ・再生利用品をどの程度、購入しているのかを把握して、グリーン購入の拡大・維持を検討する。 	

6. 環境改善活動

	相模原工場	本社
計画内容	<ul style="list-style-type: none"> ・工場の外周清掃 ・月に一回の外周清掃活動を行う。 	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・外周清掃活動を維持する。 ・業務に絡んだ改善活動を、今後検討する。 	

再生エネルギーの活用

	龍ヶ崎工場・豊田第二工場・新居浜工場・宮崎工場
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電の活用
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、認証取得拡大を行う龍ヶ崎工場・豊田第二工場・新居浜工場・宮崎工場では、環境負荷の低減のために太陽光発電の活用を行っております。

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される主な環境関連法規等は次のとおりである。

適用環境関連法規等	適用事項	順守状況
地球温暖化対策推進法律	特定排出者	○
神奈川県地球温暖化対策推進条例	特定大規模事業者	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律	特定排出者	○
特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律	第一種特定製品 保有	○
大気汚染防止法	ボイラー・コージェネレーション等	○
下水道法	下水道	○
水道法	簡易専用水道	○
騒音規制法	規制基準値の順守	○
振動規制法	規制基準値の順守	○
悪臭防止法	規制基準値の順守	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の適正処理	○
資源の有効な利用の促進に関する法律	資源の有効活用	○
食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律	食品廃棄物等多量発生事業者 食品リサイクル率	○
食品衛生法	食品衛生管理者	○
相模原市火災予防条例	火を使用する設備	○

環境関連法規の遵守状況を確認した結果、過去 3 年間違反はありませんでした。また運用期間中、近隣からの苦情はありませんでした。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 全体評価

エコアクション21を構築し、3ヶ月の運用期間を経て目標の達成状況、計画の実施状況及び法規等の順守状況を確認した結果、目標は未達成ではある。実施運用について改善する余地が十分にあるため、環境方針・活動目標は変えるのではなく、システムの改善と計画の充実させることで、達成状況を高めていく。環境法規については、法的要求事項の特定と届出等の確認を引き続き行っていく。

(2) 見直しの結果

- ①達成状況を高めるために、教育活動などを通じて環境活動への人の意欲を高めていく。
- ②電気・ガスまた水の使用量、食品廃棄物の排出量を把握し、運用面や設備面の問題点を見つけ、対策を行うことで、目標達成につなげていく。